

国際化に対応した外国語教育の現状と課題

笹原悠莉

日本の外国語教育は大きく変わろうとしている。今まで行ってきた外国語教育、いわゆる英語教育は、読解力と翻訳能力に重点を置いているものだった。しかし、2020年度の学習指導要領改訂を経て、従来の英語教育より実践的な英語教育が進められることとなった。これからの私たちは、少子高齢化や生産年齢人口の減少等の問題を抱えながら、絶え間ない科学技術の発展の中で激動の時代を生き抜くこととなる。社会問題に積極的にアプローチしながら持続可能な社会を牽引していく存在として、国際共通語である英語を使ったコミュニケーションの重要性はますます高まるだろう。これらの変化に対して、私たちにはどのようなことが期待されているのだろうか。

本論では、日本国内での英語の重要性の高まりから、従来の英語教育を経てどのように教育内容を改善して外国語の専門性を向上させるのか、国際的に活躍して貢献する人材を育成するためにどのような取り組みが行われているかについて検討した。また、小学校中学年から継続して行われる外国語教育について、現状と課題を浮き彫りにし、今後の英語教育の発展や展望についても考察している。